

平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 28 年 2 月 10 日に稚魚調査を実施した。天気はほぼ快晴で、気温 8.4~9.3℃、北西～北の風 4.6~6.1m で海は平穏だった。当日は大潮で、6 時 29 分満潮、12 時 18 分干潮（東京都港湾局のデータ）であった。魚は上げ潮に乗って来ることから、最干時から、上げ潮時をねらって調査した。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点では、冬季の低水温の影響で魚類の数量が少なく、その他の生物として、葛西人工渚を中心に多く確認されていたニホンイサザアミも少なかった。魚類稚魚に関しては、昨年末（12 月調査）に引き続き、アユの稚魚が、葛西人工渚およびお台場海浜公園にて確認された。

2016/2/10	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	11:40~12:20	13:40~14:35	15:30~16:50
水温 (°C)	11.6	11.2	10.5
塩分	29.1	30.2	28.0
透視度 (cm)	62	45	53
D0 (mg/L)	10.3	10.4	10.5
D0 飽和度 (%)	116	114	111
波浪 (m)	0.1 未満	0.1	0.1
pH	8.4	9.1	8.4
水の臭気	中カビ臭	中カビ臭	弱カビ臭
備考	砂底		

注) 塩分、D0、pH の値は計器測定値のため未確定。

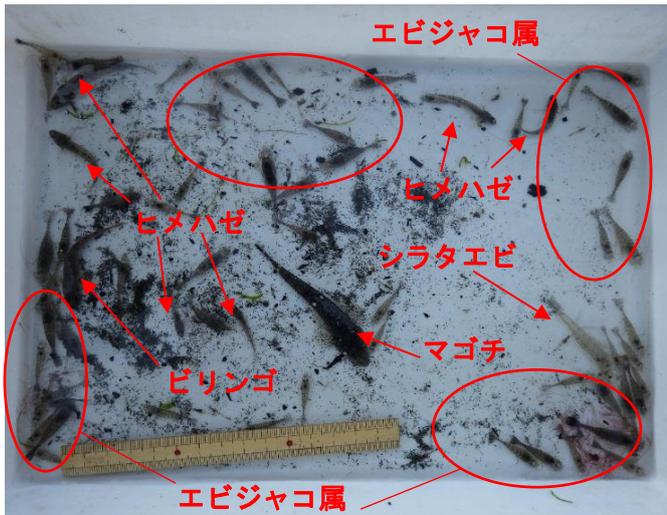
●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種 (多い順 ^注)	マゴチ (r)	アユ (+)	アユ (r)
	ビリンゴ (r)	ヒメハゼ (+)	ビリンゴ (+)
	ヒメハゼ (r)	アシシロハゼ (r)	ヒメハゼ (r)
			チチブ属 (r)
魚類以外	エビジャコ属 (c)	イサザアミ類 (G)	ニホンイサザアミ (r)
	シラタエビ (r)	エビジャコ属 (+)	
	ニホンイサザアミ (r)	アキアミ (r)	
備考			アユのサイズは、葛西人工渚より一回り小さい

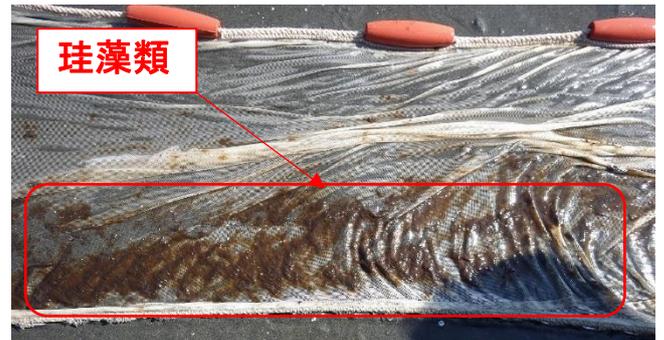
注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



干潟の干出はやや少なかった。地曳網で捕獲された魚類は 3~4 種で、ヒメハゼ・ビリンゴ等の干潟のハゼ類やマゴチ等が確認された。その他の生物としては、ニホンイサザアミのほか、エビジャコ属、シラタエビ等が確認されたほか、植物プランクトンの珪藻類が多量に混入した。



ヒメハゼは東京都内湾干潟の代表的な小型ハゼで、マハゼと違い周年を干潟で過ごす。産卵期は夏季である。



本年度は 6 月、12 月調査を除く調査でマゴチの稚魚が確認され、産卵期が長期にわたっている様である。



ヒメハゼと共に東京都内湾干潟の代表種である。4 月の調査では大量の稚魚が本調査地点で確認された。



東京湾の砂泥底に多く生息する小型のエビ類である。成魚調査で確認される個体とは別種の可能性がある。



葛西人工渚 採取試料



魚類は2~3種と少なく、ハゼ科のヒメハゼ、アシシロハゼおよび、約5cmに成長したアユ稚魚等が確認されたのみであった。

今回調査ではイサザアミ類は前回(12月)と同程度の個体数と推定されたが、サイズ的に大きくなっている印象を受けた。その他、アキアミ、エビジャコ属、シラタエビ等が確認された。



アユの稚魚は前回調査では2cm程度だった。イサザアミ類を餌として成長すると思われる、干潟の存在は大きい。



東京湾の干潟には2種のイサザアミ類が生息する。経験的に見て、左がニホンイサザアミ、右がクロイサザアミと推定される。



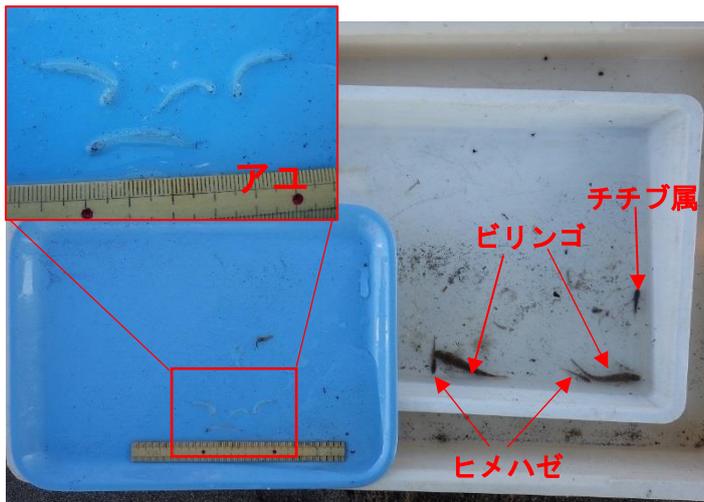
アシシロハゼは、マハゼと近縁の干潟の代表的な小型ハゼ類で、マハゼと違い産卵期は夏である。



アミという名前がついているが、クルマエビ科に属するエビの仲間。尾部の赤点が本種の特徴である。



お台場海浜公園 採取試料



魚類はビリンゴ成魚と、ヒメハゼ、チチブ属の稚魚、アユの稚魚が確認された。その他の生物としては、少量のニホンイサザアミが確認されたのみであった。当日は、調査時の潮位が粒径の大きな礫底層を曳網する状況であり、多量の礫が混入したため、捕獲魚の個体数が少なかったものと推定される。アユのサイズは、葛西人工渚より小さく、個体群が異なると考えられる。



アユ稚魚は昨年4月にも確認されており、お台場海浜公園はアユの成育場として利用されている。



チチブ属

前回(12月)調査時より成長していた。同定は困難だが、チチブ・ヌマチチブのいずれかと推定される。

注) 画像は上の拡大画像をさらに拡大し稚魚のみ回転させたものです。



ビリンゴ

画像の上がオス、下がメスである。オスに婚姻色が発現していることから、ビリンゴは現在産卵期と思われる。



ヒメハゼ

ヒメハゼ稚魚の全長は約3cm未満で、昨年の夏季に生まれた個体と推定される。



調査地点の様子



地曳網の様子